

# 都道府県別人口流入・流出と年齢階級別人口 の関係

松島大晟(236x066x)

## 1. 動機

近年、中央集権国家制度の名残や少子高齢化に伴って様々な領域で地域格差が発生している。特に人口においてこの問題は顕著であり、地域社会の伝統継承や高水準の教育体制が維持できなくなっている。これを是正するための現状分析には各地域の人口に関する調査が必要であるが、数値データから必要な情報を精査し、取得するのは困難であるから効率的なデータ解析手法が必要である。

## 2. 方法

今回は人口による地域格差の原因として挙げられる、地方の人口の流動と少子高齢化傾向について分析するためのツールを提案する。ツールはビューワーを二つ設定し対話的に操作し分析するというものである。ビューワーは地域間の人口の流動性を表す点グラフと選択した道府県における年齢階級別人口が棒グラフで表示されるものである。Fig1に示すように点グラフのビューワーはx軸に人口流入量、y軸に人口流出量を設定しており、点にカーソルを合わせると点の人口流動量と道府県名が表示される。その後、年齢階級別人口を知りたい道府県の点をクリックすると右側に棒グラフが反映されます。

## 3. 結果

結果は以下の画像(Fig1.)のようになった左のビューワーから道府県における人口の流動は相関があることがわかった。また、右のビューワーから各道府県全体で労働年齢人口が多いことがわかった。その中でも左のビューワーで右下に位置する道府県は人口が多かった。

## 4. 考察

結果から考えられることは二つあった。一つ目は左のビューにおいて右下に位置する道府県は人口が多かったことから都会と呼ばれる道府県が右下に集まっていると考えられる。しかし、グラフの最右下は神奈川県であり、東京に次いで都心と考えられている大阪よりも流入が流出に比べて多かった。これは、県内外への流動の一番大きな原因である就職において企業数が最多の東京都のベッドタウンとなるか

らであると考えられる。二つ目は効率なデータ解析ができていることだ。実際に道府県間の人口に関する違いを詳細に確認でき、元来の目的である地域格差を定量的に測定できる結果を得られた。

5. まとめ

地方の人口の流動と少子高齢化傾向について分析するためのツールを提案した。開発したビューワーは定量的に地域格差を確認することができた。

6. データ引用元

令和 4 年 1 月 1 日住民基本台帳年齢階級別人口（都道府県別）（総計）（総務省）

令和 3 年住民基本台帳人口移動報告（総務省）

Population Dataset

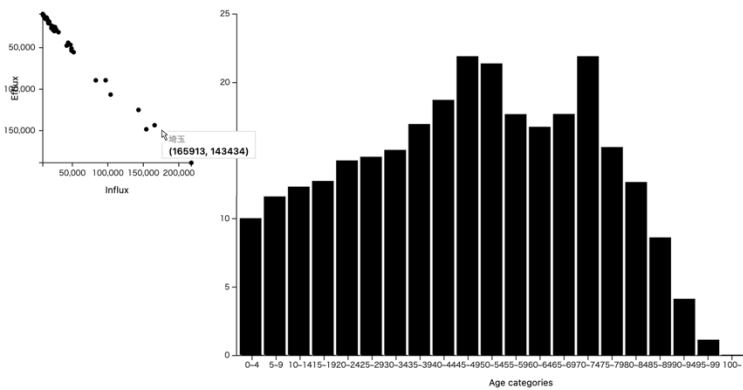


Figure 1